

中高生の将来を損なう 「ネット炎上」は なぜ減らないのか

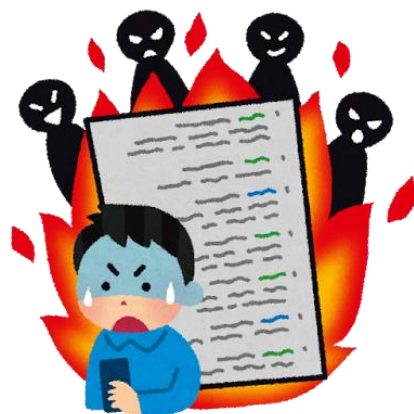
悪ふざけの様子や、有名人の目撃談をブログに投稿し、大きな騒ぎになってしまう「ネット炎上」が起きると、第三者によって本名や学校名、顔写真などが暴かれ、インターネット上に拡散し、長期間に渡って残るなど、当事者の将来に大きなマイナスの影響がおよびます。

常識によるブレーキが効かない

アルバイト中の悪ふざけ、弱いものいじめ、他人のプライバシーや権利を侵害する行為など、中高生の「ネット炎上」の多くは、ネットへの書き込みをする以前に「人として許されない行為」が原因となっています。新たな「ネット炎上」が起きるたびに、インターネットやスマートフォンの普及に伴う社会問題として世間では取り扱われますが、それだけでなく、家庭教育や、学校現場での生活指導の大切さが改めて問われることとなります。

ネットの特性を正しく理解していない

「インターネットの特性により騒ぎが起きる、拡大する、影響が長引く」ことについても、正しい理解が必要です。まずは「秘密のつもりでも公開される」（本資料の平成27年8月更新分）や「いったん送ったら全部は取り消せない」（同9月更新分）などネットの特性を、子供の発達段階に合わせて早くから何度も説明し、理解させる必要があります。また、アルバイト先からの損害賠償請求や本人の信用失墜など、大問題になった際の自分や周囲の人々への悪影響についても、中高生に分かる表現で、なるべく具体的に理解させることが大切です。



指導の要点

中高生の多くは、「ネット炎上」について聞いたことはあっても、それが自分にも起こり得るし、将来に大きな影響をおよぼすおそれのあることを実感するまでには至らないことが多くあります。退学や推薦・内定の取消しなどの進路への影響や、長期間、検索結果に不利な情報が表示される可能性があることなどもあわせて伝えるべきでしょう。また「未成年者だから損害賠償義務は負わないと誤解している」、「賠償金額がイメージできないようだ」などの声も聞かれます。実際には、本人が支払えない場合には保護者の債務となり、金額も数千万円に達するケースがあるなども、年齢に応じて具体的に伝えることも必要です。